



勝央町立勝間田小学校の非認知能力を育成する取組を取材しました。

【キーワード】

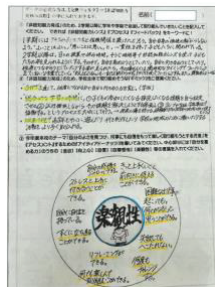
- ①「夢育」アドバイザー ②アイデアドーナツ ③感情の動き ④きんとくんカード ⑤振り返り

【取組のポイント】

1【学校の安定化に向けた校内研修の充実】

○「夢育」アドバイザーの活用

・県の「夢育」アドバイザーである岡山大学 中山芳一准教授を招き、校内研修を繰り返し行った。なかなか自分に自信がもてない児童や、集中して学習に取り組むことが苦手な児童にどのような力を身に付けさせたいのかを協議したり、個人でのレポート作成や、ビデオ撮影した授業を題材に教師の仕掛けや児童の姿について検討したりした。

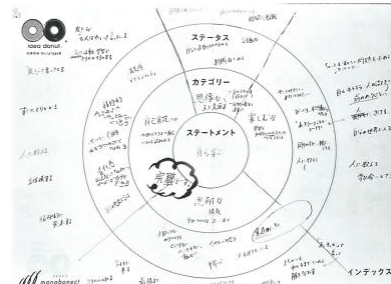


個人作成したレポートと 校内研修の様子

2【アイデアドーナツを活用した行動指標づくり】

○学校教育目標をチャックダウンすることで行動指標を作成

・抽象的な学校教育目標を「非認知能力」の観点からチャックダウン＝言語化・共有化し、具体的な児童の姿にした。  
 ・目指す児童像である「自ら学ぶ子ども」（対自的な非認知能力）、「共に伸びる子ども」（対他的な非認知能力）をそれぞれ細分化し、「挑む力（自信）」や「高める力（向上心）」「あきらめない力（根気）」など目指すべき6つの力と12の具体的な行動に整理し、勝間田小学校非認知能力行動指標（別添1）を設定した。



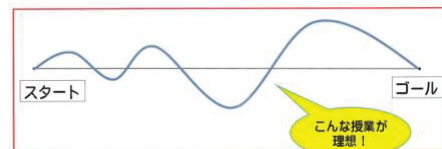
研修で活用したアイデアドーナツ

※アイデアドーナツはカンコーマナビネクト株式会社と岡山大学 中山准教授により作成された思考ツールです。

3【事例】

○児童の「感情の動き」を意識した授業改善

校内研修では、以前から使用している「ギミックブラッシュアップシート」に改良を加えて、授業における児童の感情の揺れ動きを視覚的に表現する欄を設けた（右図・別添2）。これにより「ギミック」を単なるしかけではなく、「心ゆさぶるしかけ」として捉え、見せ場（山場）をより意識した授業づくりを行っている。



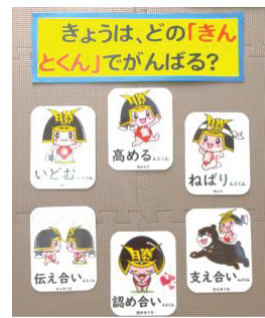
授業中の児童の「感情の動き」を表現

○行動指標につながるキャラクターの設定と活用

勝央町マスコットキャラクターである「きんとくん」（右図）を活用し、6つの力それぞれに「いどむんとくん」などの愛称を付けた「きんとくんカード」を作成し、授業の中などで発揮すべき非認知能力を示し活用している。



いどむんとくん 挑む力



○学校行事を通して伸ばす非認知能力

運動会では個人のアプローチとして「自己認識→目標設定→振り返り→再認識」という流れで、独自のチェックシート（別添3）を活用した自己評価活動に取り組んでいる。事前の自分の非認知能力についての自己認識からその行事で伸ばしたい非認知能力を設定し、行事を終えた後で振り返りを行い、設定した非認知能力がどれくらい伸びたのかを自己認識させている。

○勝央町全体【保・小・中・（高）】への取組の拡大

勝央町教育委員会による「勝央町非認知能力実行委員会」の立ち上げにより、町全体で非認知能力を育成する基盤が整ってきている。校・園長会研修で、勝間田小学校の取組を発表・共有したり、町一貫教育研究会で講演会や授業研究会を実施したりしている。

【行事を終えて】自分の非認知能力はいまどんな感じ？

非認知能力	チェック事項	とてもできている	できている	できていない
自分と向き合う力	1 わたしは、自分のよいところやがんばっているところを見つづけている。	5	4	3 2 1
自分と向き合う力	2 わたしは、得意なことや強みを知り、自分で目標を設定している。	5	4	3 2 1
自分と向き合う力	3 わたしは、具体的な目標を設定し、その目標に向かって頑張っている。	5	4	3 2 1
自分と向き合う力	4 わたしは、いま取り組んでいること、がんばりつづけている。	5	4	3 2 1
粘り続ける力	5 わたしは、苦しいときやがんばっているときもあきらめずつづけている。	5	4	3 2 1
粘り続ける力	6 わたしは、困難や挫折に打ち負かされず、立ち直ることができている。	5	4	3 2 1
粘り続ける力	7 わたしは、集団の中で自分が何をすべきかを考えて、意見を述べて、自分の役割を果たしている。	5	4	3 2 1

自分で決めた非認知能力を伸ばすために、運動会を通して何をしたか、やってみてどうだったか、次はどうしたいか。

行事後の児童の振り返り

取材を終えて

学校をより良くするために「まずはやってみる！」を合言葉に、児童の非認知能力の育成に取り組まれていました。授業改善の取組や学校行事での振り返りなどを通して、目標に向かって児童と教員がともに頑張っており、この紙面で紹介したもの以外にも、保健室での取組が進んでいるようです。以前より児童や教職員の笑顔が増え、学校全体が落ち着いた状態になってきており、今後も非認知能力育成の取組に積極的にチャレンジしていきたいとのことでした。